

まんさく

第299号

発行
特別養護老人ホーム光寿苑
まんさく編集委員会
和賀郡西和賀町湯本30-76-1
TEL 0197-84-2526
koujhu@fancy.ocn.ne.jp
題字 元理事長 太田 祖 電



季節は過ぎてしまいましたが、とっても良いお写真なので表紙を飾らせていただきます♡

299号もくじ

☆2頁★

* 光寿会目的と職員心得

☆3頁★

* R6年度 光寿会事業計画

☆4頁★

* 今生より往く、夜間防災訓練
* 寄附・寄贈・訪問等紹介 等

☆5頁★

* 想… 災害を捉える

☆6頁★

* 地域密着型事業紹介
(日常 運営推進会議録)

☆7頁★

* 元気です！家族会♪
* 震災を偲ぶ春彼岸

☆8頁★

* 「光寿苑の日々」(4コマ漫画) * 「自然法爾」(おきさんのお話)

* 「おわりに」

光寿会の存在意義は何か？この「目的」を果たすべく心得を表します。

光寿会が歩む「目的」

『生きる意味』を発見し合える道場にしよう

- (1) 寝たきりに近い状態で、一生を苑生活で閉じようとしている方が多いわけで、その方々との共同生活の中で、寝たきりであっても「生きる意味」に何の遜色も無いことを発見すべきである。それは、「職員からお年寄りへの愛」というだけの人間関係ではなく、お年寄りから職員への心づかい、愛などによって、初めて福祉職員として働いていられることを忘れないことである。
- (2) お世話する者とされる者という関係ではなく、むしろお年寄りに何かを学ぶという職員、そういう関係でありたい。

*** 光寿会職員の心得(理念)…2024 ***

2024年度法人キーワード

『続・活かす』

2023年度テーマは『活かす』でした。お年寄りの暮らしを支える中で、職員との協働の職務の中で、地域資源を活用する意識を持つ中で色々なものが見えてきました。

『自利利他』(自分の喜びや幸せ=他人の喜びや幸せ)の精神で、お互いを活かす在り方を新年度も継続して参ります。各部署のテーマ(ゴール)、目標や方針設定に際は、法人の目的をイメージしながら、『活かす』という意味合いを盛り込んで考えましょう。

① 自分がされて嫌なことはしません、させません。

自分が『不快に思う事、嫌がる事』を相手にしない！という意識で常に振り返りましょう。相手にとって本当に嫌な事は何か、遠慮して言わせなくしていないだろうか等、点検してみましょう。

② 誰がいてもいなくても、裏表のない言葉づかいと対応をします。

周りに人が居ない時に手を抜く、態度が変わるのは光寿会スピリッツではありません。手を抜けば、後に自分に返ってきます。お互いを尊びあう関わりが循環する事を肝に銘じましょう。

③ 自分が発している「音」を意識して行動します。

話し声は勿論、自分の「足音」が横になっているお年寄りにはどう聞こえているのか？快・不快のどちらなのか？自分の足音を意識する事が、相手を思いやる行動の一步になる事を意識しましょう。

④ 考えにズレが出た時こそ、相手を「よく知ろうとする」姿勢で臨みます。

コミュニケーション不足とそれに伴う先入観と偏見が負のスパイラルを引き起こします。エラーが起こった際にも対話と確認をして、相手(お年寄りや職員等)をよく理解して関わりましょう。

⑤ 「結果」よりも『経験から得た財産』に目を向け、尊べる人に成ります。

どんな仕事をして、どんな成果を挙げたかで自他を評価する「結果主義」の観方が、自分たちの仕事に苦悩をもたらします。どんなに尽力しても、最後はお別れもくる私たちの仕事。であればこそ、結果に至るまで費やしてきた関わりの中身と、経験から得た財産に目を向け、その成長を尊びましょう。

光寿会の存在意義は何か？この「目的」に沿って事業計画を立案します。

令和6年4月1日

令和6年度 『光寿会事業計画』

① 有事に備えたBCP(業務継続計画)を整えて対応します。

自然災害や感染症集団発生などの有事が発生した際、事業活動レベルの落ち込みを小さくし、復旧に要する時間を短くする事を目的に作成される計画書を整備。これを元に、法人職員全体の研鑽を重ねながら底上げをはかる。

【有事の際にもサービスを大きく低下させない対応効果】

② 経営感覚を持って地域ニーズに応えます。(統合・継続)

地域ニーズに応えるため、短期入居事業は『月～金開所』『6名受入れ』と受入れ制限を緩和。受入れ体制に考慮しつつ、短期利用安定化をはかる。入居空きベッド最小限に向け、調査→検討→決定の流れの確立。

【お互いの役割と状況を理解しながら皆で地域を支える効果】

③ お年寄りの声に対して、より効果的に対応します。

お年寄りの声を大切にする事が法人目的に繋がる。『上司不在で決められない』ではなく、お年寄りにとって良い事であれば、その場にいる職員で判断し実行できる事を実践したい。事後報告は必須とし、見直しも忘れずに！

【利用者本意の目的を尊び、素早く実行するための効果】

④ お年寄りの^{けんこう}笑顔の時間を増やします。(継続)

お年寄りが心から笑顔になれる健康的な時間であるご家族との面会、自宅への外出、お祭り行事等の中味の吟味を経て、お年寄りの喜ぶ時間を増やしていきたい。感染対策を講じた上で、いかに時間を拡大できるか。

【どうすれば実現できるか？ポジティブシンキング効果】

⑤ 行政及び社福法人と共に光寿会の将来設計を整えます。

人口減や介護報酬の低改定、物価高騰等の影響で、事業継続の厳しさを抱えている福祉介護産業。各法人が単独で課題を抱えるのではなく、行政と社福法人と共に知恵を出し合い、光寿会の中長期の将来設計を組み立てたい。

【町全体の大きな課題として関係機関が協働で取り組む効果】

『今生より往く』



相手を柔和な心に導く言葉と笑顔



感謝の言葉を手向け続けた1世紀

田村 シゲさん【96歳】

歌が大好きで、行事でも、普段でも、よく手拍子(なから)楽(そ)うに笑顔で、やさしい歌声を私たちに聞かせてくれましたね♪ステキでした。今春のもちつきでは、つき手の職員たちに、「本当、苦勞お掛けしましたね、ありがとうさん」と労いの言葉を掛けるおなまやさしい方でした。
【担当 柴田恵美、三浦ひと子】

高橋 テツノさん【102歳】

遠く離れて暮らされている孫さんにも、「おばあちゃん、大丈夫ですか?」と、常に楽しられていました。孫さんたちも小さい頃、愛情た、ふり注がれてきた方なんだなあと、テツノさんの思いが届きました。職員に対しても笑顔で「ありがとう」と温かい言葉を下さる方でした。
【担当 佐藤俊子、柴田真衣】



夜間防災訓練

3月7日

おかげさまでした

面会【3月1日~31日】

【面会】延べ67名 (対象入居者27名)

寄贈

- ★ 柏崎良雄 様 [湯田]
- ☆ 梨子下 深幸 様 [上野々]
- ☆ 今野陽子 様 [上野々]
- ☆ 阿部貞子 様 [湯本]
- ☆ 高橋ちづ子 様 [下前]

訪問

夜間防災訓練 3月7日

★ 西和賀消防署員 様 ... 3名

お茶会壁掛け作り 3月17日

☆ お茶会メンバー ... 15名

ひなたぼっこ運営推進会議 3月21日

☆ 運営推進会議外部委員 ... 10名

★=光寿苑、☆=ひなたぼっこ

光寿会へのご支援

想... 災害を捉える 宮城県から発信します⑦

『3.11[1]』… 白木澤琴氏



宮城県の僧侶・白木澤琴さんより7回目のご執筆です。今回は13年が過ぎた「3.11」当時について語って頂きます。迫りくる緊張感がございます。

『3.11[1]』

今年もまた、3月11日がやってきた。玉蓮寺では午後2時40分に梵鐘をつき、その後本堂にて、東日本大震災追悼法要を行った。玉蓮寺では、5名の門徒さんが七くなられたが、ご親戚、ご友人の被害を考えると、その数は計り知れない。丸3年経っても、本堂には約20名の方が集まった。普段の行事には来なくても、この日だけは姿を見せる方も何人かいらっしやる。ご友人、ご家族を亡くされた方も。私自身も日頃は忘れかけていても、この日が近づくと、不思議と焦燥感に駆られ、色々な記憶が鮮明に蘇ってくるのだった。震災当時の感情、地震の揺れの感覚、遠くから風に乗ってやってくる焦げ臭い匂い、遺体安置所で目にした光景…。それらの【記憶】が、忘れられないよ、せめてこの日だけは思い出せ!!と、叫んでいるような気がするのだ。今回から、3.11での出来事も、少しずつ、振り返りたい。

2011年3月11日、この日は午前中に本堂で法事があり、大勢の方が参詣された。疲れてコタツに入って過ごしていた午後2時40分、突如、震度6強の凄まじい揺れが襲った。まるで遊園地のコーヒーカープのような、遠心力を感じる揺れ。トッサにコタツの中に隠れる。かシャンノ、ハキッ!; 家中から響いてくる。照明は壊れ、テレビも消えた。止まれ!!と、腹の底から叫んだ。

少し揺れが収まり、コタツから出ると、辺りは停電。情報は無い。携帯電話も繋がらない。水はどうか。風呂場の蛇口を捻ると、まだ少し出る。水道が止まるのも時間の問題。浴槽に溜めるべく全開に捻り、そのまま家の外に出た。寺のすぐ隣りには、お一人暮らしのじ門徒さんがいる。一直線に自宅に向かうと、おばあさんがコタツに座り込み、その両面には家具が倒れて身動きが取れなくなっていた。何とか助け出し、我が家の家族といっしょに寺の駐車場に停めていた車の中に避難した。



壁が崩落した玉蓮寺本堂3.11当時の様子

▲次号へ続く▼

余震のため、何度も車が弾むように揺れる。車のラジオも、車のテレビ画面も砂嵐と雑音が多すぎて、聞きとれない。ふと飛が込んだきたのが、何やらとんでもない津波警報が出ているということだった。でも、その時はまだ、津波の本当の恐ろしさは、知る由も無かった。

今月の登録者の方々
15名様です♪

小規模多機能ホーム「ひなたぼっこ」
住宅型有料老人ホーム「湖畔の宿」

急に暖かい春がやってきました♪「ひなたぼっこの日常」



【写真】3月のお茶会では、壁掛け飾り作りを行い、想い想いの言葉を載せて作りました♪

第6回『運営推進会議』(3月21日)

会外部委員10名、職員4名出席

①年度末となりましたが、一年通しての利用状況(アベレージ)はいかかですか?登録者15名と報告されましたが、通年通してこんなところでしょうか。

②定員は最大18名としておりますが、年間では15を下回っております。

③その内のお一人が入院中ですが、才也を伴い、心身共に大きな状態変化となっております。今後、こちらでは暮らす事が難しいため、光寿苑を含む施設入居申請を同時に進めています。

④地域の困っている方の相談受け入れ窓口がひなたぼっこにあるものの、その相談をいかにキヤッチしていくかとなると、通

⑤半業務との兼ね合いから見ても難しいところがあるかと思えます。我々委員も事業所側の一員として、何かししたらあの方

⑥は困っていないだろうか?等の気がきかある時は、話題提供として当会議の中に出していく事

⑦もまた大事ではないでしょうか。その事が、その人にとっての生活の改善に繋がり、また事業所

にとっての新たな繋がりになる事と思えます。

⑧お話し頂いてますように、アベレージが上げられない切実な問題があります。人口減の問題もあげられますし、一ヶ月の包括的料金体系となっている点も、

⑨「高い」印象から結果的に選ばれないという事例もありました。お知恵をお借りできれば。

⑩例えは委員の私たちも、気になる方やあの人一人暮らしだけが大夫夫だろうか?的な話題で宜しいかと思えます。直ぐにはサービズ利用に繋がらないかも知れませんが、様々な情報交換する事で見えてくるものがあると思えます。実際、行政・福祉担当の方もメンバーに入っておりますし、民生委員の方もおります。皆で話し合いたいです。

⑪昔話ですが、あるお婆さんが朝、若い人たちが縁ぎに出ると日中一人になる。自分一人の時は薪がもったいないから使わず毛布がぶって過ごす。そういう人が沢山いた。この方々が一緒に過ごせばとサロンが始まる。

⑫必サロン「んだなサロン」(社協事業)

⑬

⑭

第114回



家族会地域役員
佐々木忠雄氏

114回目も、読むのが待ち遠しくなりました、家族会役員・佐々木忠雄さんの投稿でございます(^_^)

元気です！家族会♪

サトフルレシ④「続・酒」

我が家のアルバムには、お猪口を片手にした3人、歳ぐらいの男の子の写真が、あります。幼い頃の私の写真です。

ある日、父と知人とお酒を飲んでた時のこと。知人やおもしろがって私にお酒を飲ませました。理由は、単に、お酒を飲んだ私が、

の分らない言葉を発したり、踊ったり歌ったりするのがおもしろかったのだそうです。

その結果、酔っぱらって高熱を出し、意識がなくなりました。たのたの！
(昭和の古き時代の「不適切にもほどがある！」状況

でございませうので、加味してお読み下さい(笑) 急性アルコール中毒だと思えますが、両親は本当に困ったようです。病院に連れても行けず、一晩寝ずの看病をして事なきを得たのだそうです。

しかし、その知人は反省は一つもなく、酒だからダメだったんだ、ビールならいい、と、今度はビールを飲ませたというのです！

結果は前回と全く同じになり、また一晩、寝ずの看病をしてくみたまわります。本身に死んでしまうかも、と、父と母は泣きながら看病したと言っていました。

さすがに子回目はなかつたの事です(笑)。決してマヌハしないようにして下さいね。

続

震災を偲ぶ春彼岸 【3月21日】

毎年、3.11と春のお彼岸のお参りを併せて勤めて参りましたが、今年は北陸の地震にも想いを馳せながら、お年寄りと職員で手を合わせる時間を過ごしました。



vol. 299号 光寿会の日常



君たちはどう生きるか

《吉野源三郎》

第98回 丸田善明
自然法爾 (じねんほうに)

スタジオジブリの同名のアニメ映画が、アカデミー賞を受賞したと言う。昭和16年生まれの宮崎駿監督が、一度引退した映画作りに戻って完成させたと聞いた。88歳の宮崎さんの思いの中に、このままじゃ終われないなりの切々たるものがあったのだろうと、同年生まれの私は思っている。

今、日本人の多くは、太平洋戦争には敗戦したが、戦後には経済成長を成し遂げ、豊かな社会を作ってきたと自負している。だが、平和社会とは言いがたい。欲望を突き出しの世を作っただけではないか。こんな社会を次の世代に差し伸べるのは、忸怩たるものがある。

映画の題名は、日中戦争が始まった年に書かれた児童文学者・吉野源三郎の同名小説から借りたという。岩波文庫に収められた膨大な数の出版物の中で、マソクラテスの弁明△を超える購読数。私も若い頃読んだ。だからナンのだ、というなれ。私たちは問われているのだ。君たちはどう生きるか。誰に？神とハトケと我ではなく、ほかにない。君自身にだ。分かるだろうか？

この喧嘩の社会は、人間が安んじて生きるころではない。まるで悪魔に取り憑かれているようではないか。

君たちはどう生きるか

イラスト：1000

年を重ね、病気をし、話す機会が少なくなると、人は「忘れてしまった」という言葉を口にする事がある。

しかし、「昔とった杵柄」と言ったら良いか、本当に大切にしていた点に触れると、泉のように話がわいて流れ出てくる。「呼び水」は大切な要素だ。

おわりに

今頃になって、初めてコロナに感染。しかも、新年度スタート時のタイミングの悪さ。所信表明式も延期。続けて夜中の地震。さらには、お年寄りの感染も1名出る事態に、私は隔離の部屋で、ただ情報を持つだけ。肝心な時に、トップとして指揮もとれない情けなさを感ずる。落ち込んでも何にもならないのに。

結果、いる職員たちの経験則と結束力により、復数の拡がる事なく、終息までやり遂げたのである。実に見事な職員のチーム力である。職場復帰をようやく果たした私を、皆、笑いなから暖かく迎え入れてくれた。躰いたように見えた新年度開幕。遂に逆境の場が与えられて、チームで超えられる底力を証明した出発点。

※試験の時、その事実をいかに捉えらるるか